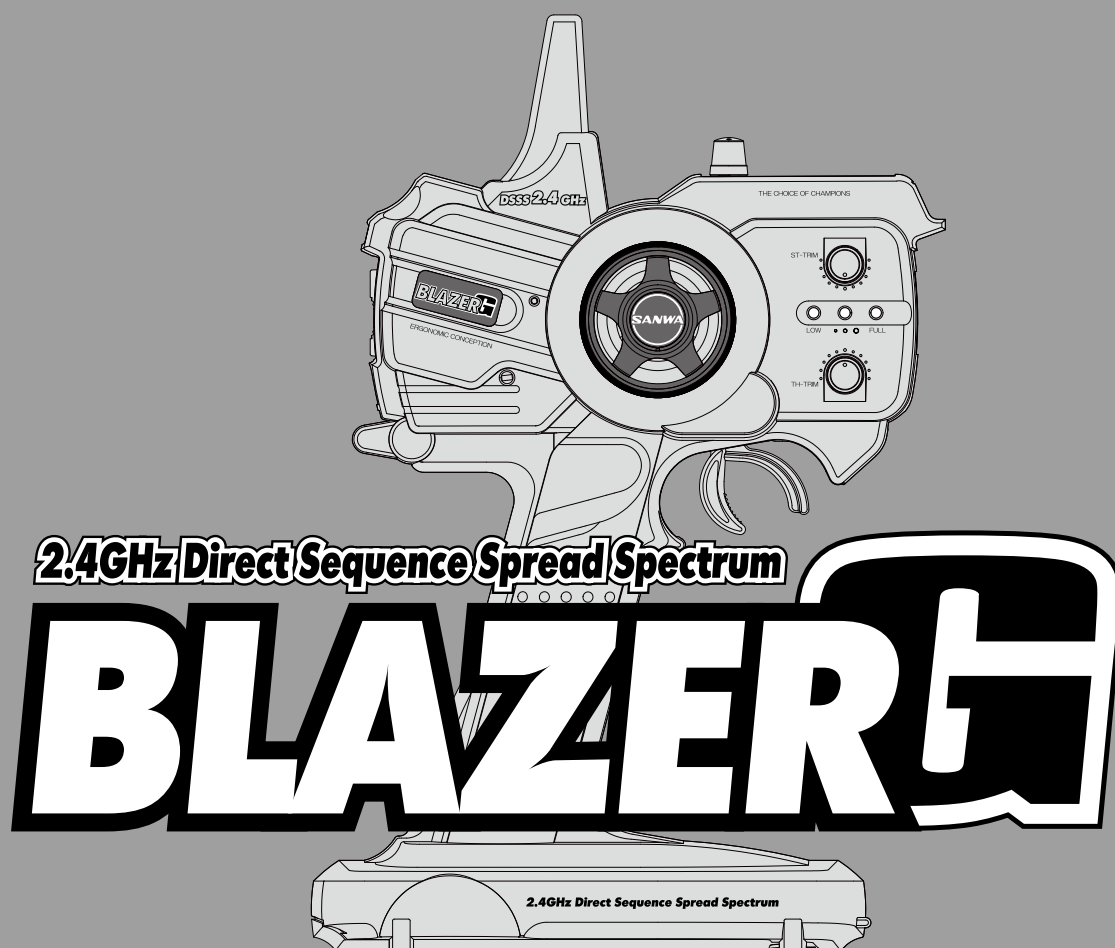




取扱説明書

このたびは、**BLAZER G** をご購入いただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、**BLAZER G** を安全に正しくご使用いただくために、取り扱いに関する手順、要領および注意事項などについて説明しています。本機の性能を十分発揮させるために、ご使用になる前には本書を良くお読みになり、正しくお取り扱いいただくようお願い申し上げます。

なお、本書はお読みになった後も、いつでも読めるように大切に保管してください。

SANWA

プロポの安全な取扱いと注意事項

お買い上げいただいたプロポを正しく安全にご使用いただくために、本書をよくお読みいただき、注意事項を必ず守ってください。使用方法を誤ったり、安全に対する注意をおこたったりすると、他人に迷惑をかけたり、自分自身をきずつけたりすることになります。

■安全確保のため、この各項目を必ずお守りください。

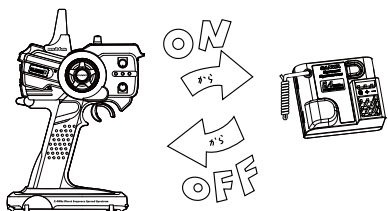


警告

搭載時及び操作上の注意

- プロポの電源スイッチをONにするときは必ず①送信機→②受信機の順でおこなってください。またOFFにするときは①受信機→②送信機の順番でおこなってください。

☆スイッチ操作を誤って逆にすると突然エンジンやモーターが高回転になり、大変危険です。



- 車体(船体)には必ずノイズ対策をおこなってください。☆金属同士がこすれると電氣的ノイズ(雑音)が発生し正常な動作をしない原因となりますのでビス、ナットのゆるみのないことを確認してください。

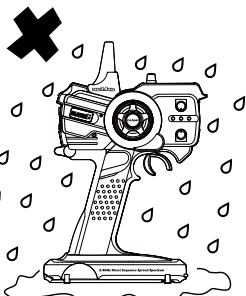
☆ガソリンエンジン、モーターなどからもノイズが発生することがあります。抵抗入りプラグや、ノイズキラーコンデンサー等のノイズ対策をおこなってください。

- 走行(航)前に必ずプロポの動作確認(通達テスト)をおこなってください。異常な動きをしたり、動かない場合は走行(航)させないでください。机上でのテストが正常であっても走行(航)中の電波の到達距離は、受信機の搭載方法、アンテナの張り方、送信機のアンテナの向き、地形等によって変わりますので、初走行(航)の際は特にご注意ください。

- 雨の日は絶対に走行(航)させないでください。

☆送信機内部は精密な電子部品でできていますので、アンテナやケースを伝わって水が入ると誤動作や不動となり危険です。

☆受信機、サーボ等が水没した時は、すぐに回収して内部を乾燥させてください。乾燥後、正常に動作しても念のために最寄りの三和サービスへ点検にお出しください。



- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。

☆厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。

- 受信機はFETスピードコントローラー、モーター、バッテリーからできるだけ離して搭載してください。

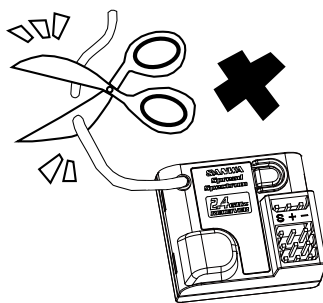
- 金属シャシーやカーボンシャシーなどに搭載する場合は両面テープを3枚位かさねて使用し、受信機をシャシーから離してください。

- 電波障害がある場合は、受信機の搭載場所をかえるか、タテ積⇄ヨコ積に搭載方法をかえてください。

- 受信機のそばにモーターコードやバッテリーコードがあると誤動作しやすくなるので、近づけないでください。

- 受信機のアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。

☆アンテナ線が短くなると走行(航)できる範囲が狭くなるので危険です。



- アンテナ線はモーターコードやバッテリーコードに近づけないようにしてください。

- 金属シャシーやカーボンシャシーに導電性のピアノ線アンテナを使用するとノイズにより誤動作する可能性があります。シャシーにアンテナ線を近づけないようにしてください。

⚠ 警告 走行(航)の際の注意

RCカー、ボート等を走行(航)する場合は、必ず下記事項を守り、他の人の迷惑にならないようにご注意ください。

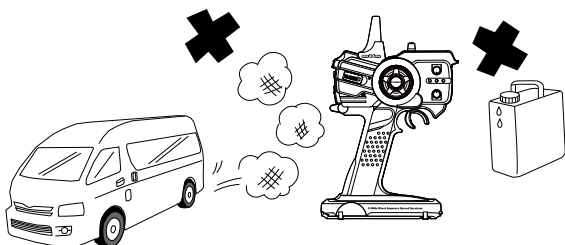
- 車体(船体)は完全に整備をして安全を確認してください。
- 人ごみや、道路では絶対にRCを走行させないでください。
- 走行(航)後は必ず動力バッテリーのコネクターをはずし、車体(船体)から動力バッテリーをはずしてください。
- 同時走行(航)の場合は必ず管制員を決めて、その指示に従って走行(航)してください。
- 他の人の走行(航)を妨げないようにご注意ください。
- ラジコン保険に必ず加入してください。ラジコン保険の加入申込は、ラジコン操縦士登録代行店にお問合わせください。
- エンジンカーには必ず消音効果のある「マフラー」(消音機)を付けてください。
- 早朝からのエンジン始動はやめてください。
- 走行(航)場所は必ずきれいに掃除をしてから帰ってください。

⚠ 注意 用途について

- 模型用以外には使用しないでください。
- 本製品は、模型用として日本国内の電波法に基づいて製造されていますので、海外ではご使用になれません。

⚠ 注意 日常のお手入れ

- エンジンの排気や燃料がついた時は、やわらかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどい時には、水または中性洗剤を染み込ませたきれいな柔らかい布を固くしぼって拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、モータークリーナー、ブレーキクリーナーなどは表面の仕上げをいためたり、変質する場合がありますので、ご使用にならないでください。

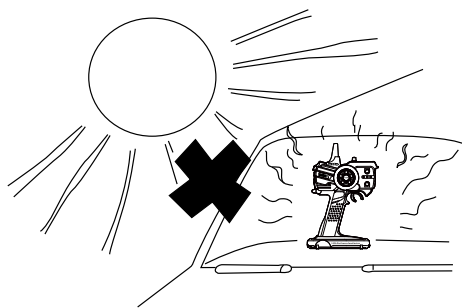


⚠ 注意 送信機の手扱いについて

- ぶつけたり、落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。またタイヤトラクション剤等のついた手で送信機、受信機、サーボ、FETスピードコントローラー等にさわると、故障やケース変形の原因となります。

⚠ 注意 置き場所について

- 次のような場所で保管しないでください。
 - ☆極端に暑いところ、極端に寒いところ。
 - ☆直射日光が長時間あたるところ。
特に窓を閉めきった自動車内で直射日光が当たる場所に放置すると季節により車内温度が80℃以上になり、変形や故障の原因となる場合がありますので、充分ご注意ください。
 - ☆湿気の多いところ、風通しの悪いところ。
 - ☆振動の多いところ。
 - ☆ほこりの多いところ、蒸気や熱気が当たるところ。
 - ☆エンジンの排気がかかるところ、燃料缶のそば。



マーク
の意味



警告

事故や怪我をしないために必ず守っていただきたいこと。



注意

故障を起こさないために必ず守っていただきたいこと。



注意

安全に使用していただくための注意事項

- 2.4GHz帯はラジオコントロール専用の周波数ではありません。この周波数帯はISM（産業、科学、医療）バンドと共用されているので、都市部では電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなどの近距離通信の影響を受ける可能性があります。またアマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響に注意して使用してください。
なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し干渉回避対策をおこなってください。
- RCサーキット等では2.4GHzシステムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に安全性の確認をおこなってください。また、施設管理者の指示に従ってください。
- 建物や鉄塔などの後ろを走行（航）させたときのように電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスの低下や操縦不能になる可能性があります。常に目視で確認出来る範囲で走行（航）してください。
- 日本国内では、技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- 海外からの輸入品等の場合で、技術適合証明ラベルが貼られていないプロポやモジュールを日本国内で使用することはできません。電波法違反になる場合があります。
- (財)日本ラジコン電波安全協会では、ラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールの使用を推奨します。



注意

安全に使用する際の注意事項

- 送信機のアンテナは構造上、電波の弱い方向があります。アンテナの先端を操縦している模型に絶対に向けないでください。
- 送信機のアンテナは操作時に地面と垂直になるように角度を調整してお持ちください。
- 走行中は送信機のアンテナを握ったりしないでください。電波の出力が弱くなり走行（航）できる範囲が狭くなるので危険です。
- 送信機のアンテナは特性上、金属製のクリップなどをアンテナに取り付けしないでください。
- 送信機のアンテナは安全性を高めるためにエラストマー製の柔らかい材質でできています。アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。アンテナの内部構造物が壊れる可能性があります。
- レシーバーは精密機器です。強い衝撃や振動をあてないでください。厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。
- レシーバーのアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返ししたりしないでください。
- レシーバーのアンテナ線はモーターコードやバッテリーコードなどのノイズ源に近づけないでください。
- 金属シャーシやカーボンシャーシにレシーバーを搭載する場合は、両面テープなどを重ねて使用し、できるだけシャーシから離してください。

特 長

- 2.4GHz帯スペクトラム拡散方式採用
電源投入時に2.4GHz帯の空き周波数チャンネルを自動的にサーチするので、従来の周波数のようにバンドの重複がありません。送信機固有のIDコードを受信機に認識させることにより、他の2.4GHz機器からの信号を受信機が受信しません。
- スーパーエルゴノミックデザイン
ベシックプロポながら操作性を高めるため、細部にいたるまで形状を考慮しました。
- スタイリッシュアンテナ採用
三和独自のスタイリッシュアンテナを採用して扱いやすさと安全性を追求しました。
- アジャスタブル・スライド・トリガー（→P.8）
ドライバーの好みや手の大きさに応じてスロットルトリガーの位置を前後に調整できます。
- ステアリングデュアルレート<D/R>（→P.8）
走行中でも簡単にステアリングサーボの動作量を微調整できます。
- エンドポイントアジャスト<EPA>（→P.9～10）
ステアリングの左右、スロットルのハイ側/ブレーキ側の動作量を独立して調整できます。
- サーボリバース<REV>（→P.8）
操作時のサーボの動作方向を換えることができます。
- フェールセーフ機能搭載
受信機が送信機からの信号を受信できないような状況になった場合には、内蔵のフェールセーフ機能が働きます。

セットの構成と規格

セットの構成表

	PCセット	ノーマルセット	BL-FORCEセット	F2200セット
＜A＞送信機	TX-233	←←←←←←	←←←←←←	←←←←←←
＜B＞受信機	RX-371	←←←←←←	←←←←←←	←←←←←←
＜C＞サーボ	—	SRM-102Zx2	SRM-102Zx1	←←←←←←
＜D＞スピードコントローラー	—	—	BL-FORCEx1	F2200x1
＜E＞付属品	スイッチハーネスx1	←←←←←←	—	—
	RX電池ケースx1	←←←←←←	—	—
	取扱説明書x1	←←←←←←	←←←←←←	←←←←←←
		アプソーパーセットx1	←←←←←←	←←←←←←

セットの規格

＜A＞送信機

品番	TX-233
出力表示	LED表示(電池容量減量式)
変調方式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
電源	単3乾電池x8本
重量	440g

＜B＞受信機

品番	RX-371
変調方式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
電源	DC4.8~6.0V
重量	9.0g

＜C＞サーボ

品番	SRM-102Z
速度	0.18sec/60° (6.0V)
トルク	3.3kg・cm(6.0V)
寸法	39.0x20.0x36.0mm
重量	45g

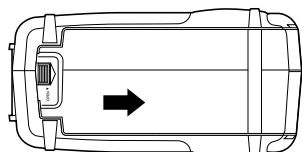
＜D＞FETスピードコントローラー

品番	BL-FORCE
使用電源	Nicd/NiMH 6セル(7.2V)
連続最大電流	150A(前進側) 60A(後進側)
瞬間最大電流	600A(前進側) 240A(後進側)
ロス抵抗	6.2mΩ(前進側) 7.6mΩ(後進側)
寸法	30.4x30.4x20.5mm
重量	43.0g(スイッチ、コネクター含む)

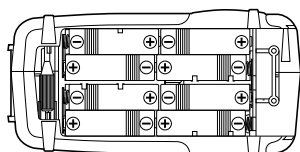
品番 F2200

使用電源	Nicd/NiMH 6セル(7.2V)
連続最大電流	520A(前進側) 60A(後進側)
瞬間最大電流	2080A(前進側) 240A(後進側)
ロス抵抗	2.6mΩ(前進側) 7.6mΩ(後進側)
寸法	28.3x33.3x26.7mm
重量	50.4g(スイッチ、コネクター含む)

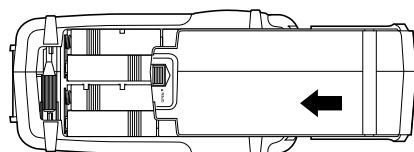
送信機の電池の入れ方



① OPEN部を軽く押しながら矢印の方向へスライドさせると電池カバーが開きます。

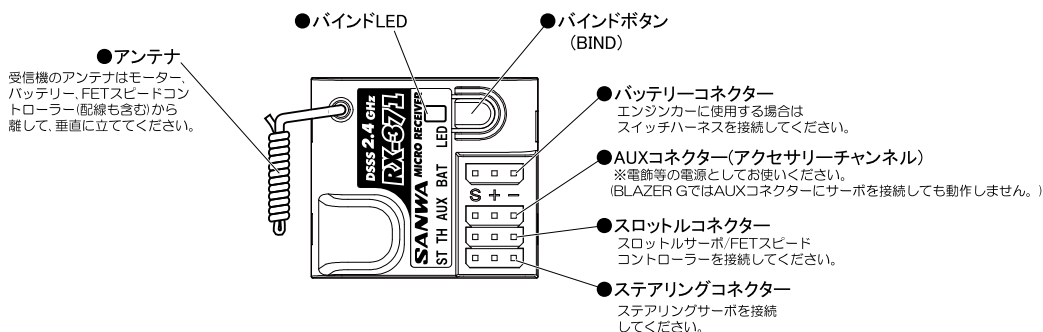
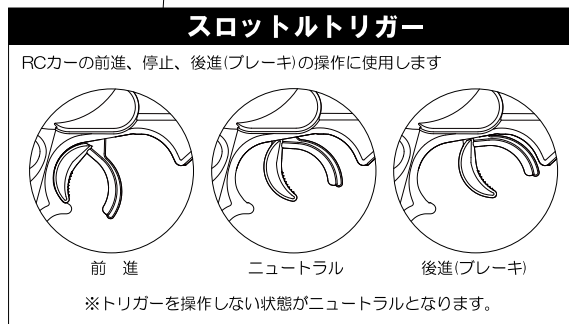
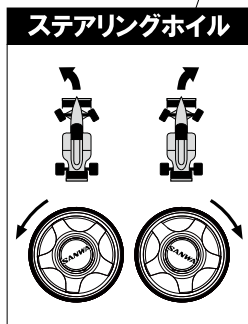
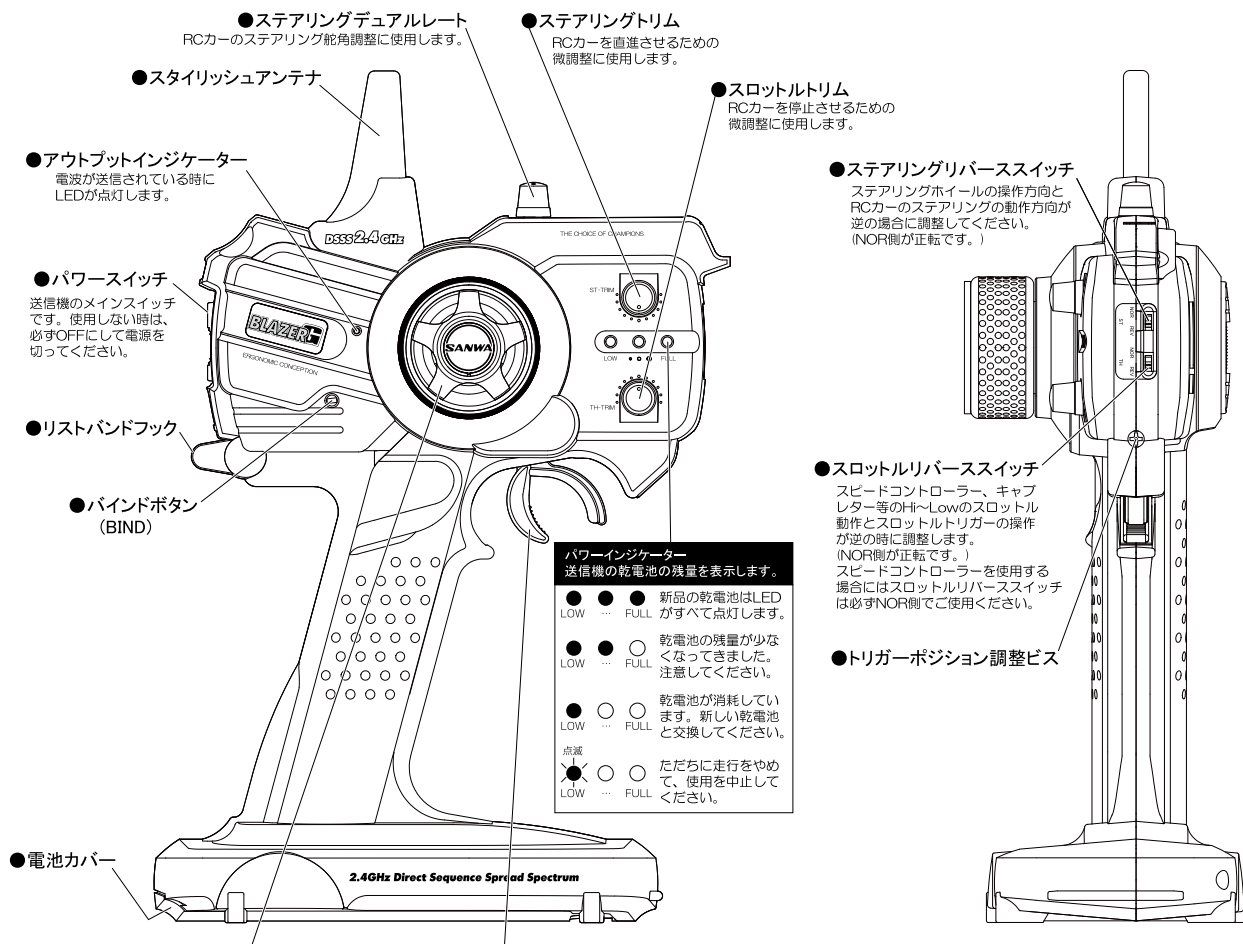


② 極性を間違えないで乾電池を8本入れてください。



③ 電池カバーの凸部分を本体の溝に合わせ、矢印の方向に電池カバーをスライドさせて完全にしめます。

各部の名称と取り扱い方法

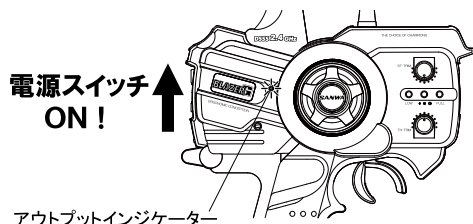


バインド (BIND) について

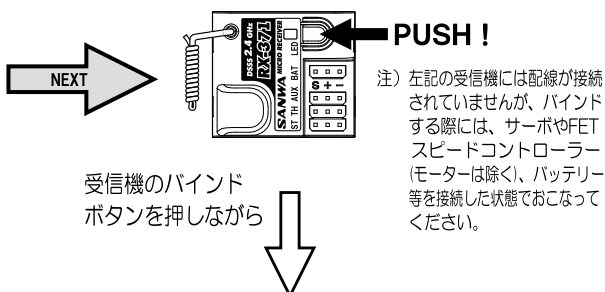
BIND (バインド) の設定方法

※バインド(BIND)とは：BLAZER G送信機はそれぞれ固有のID(固体識別)番号をもって、そのID番号を受信機に記憶させること(バインド/BIND)です。バインドした送信機と受信機のセットでしか動作しないようになります。

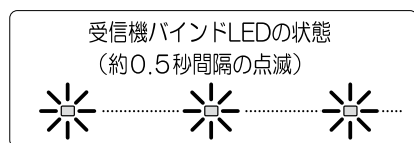
- 1) 送信機の電源スイッチをONします。
送信機のアウトプットインジケーター
が点灯していることを確認します。



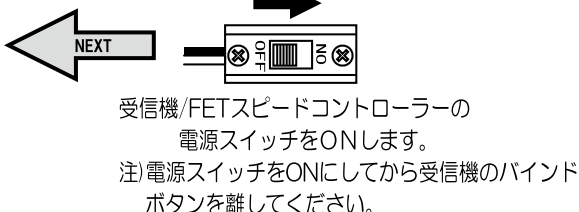
- 2) 受信機のバインドボタンを押しながら、
受信機側の電源スイッチをONします。



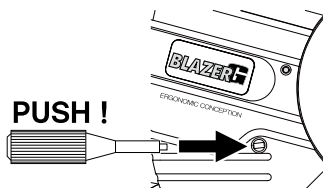
- 3) 受信機のバインドLEDがゆっくりとした点滅に
なるのを確認してください。



電源スイッチON!



- 4) 受信機のバインドLEDが高速点滅になるまで
送信機のバインドボタンをトリマードライバー
で押してください。



受信機LEDの状態(高速点滅)



- 5) 受信機のLEDが高速点滅になったらバインドは
終了ですので、送信機のバインドボタンを離して
ください。送信機のバインドボタンを離すと
受信機のバインドLEDは点灯します。
サーボ等を動作させてバインドが終了したことを
確認してください。

注) 受信機のバインドLEDが高速点滅になった状態で
そのまま送信機のバインドボタンを押し続けると、
受信機LEDが消灯します。
この状態でもバインド設定は終了しています。

⚠ 注意

- 出荷時には送信機と受信機のバインドはされていません。ご使用になる前に必ずバインドをおこなってください。
- 新たにレシーバーを購入された場合は必ず送信機と新しい受信機でバインドをおこなってください。
- 必ずバインドした送信機と受信機のセットでお使いください。

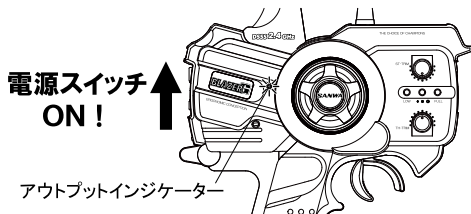
フェールセーフについて

フェールセーフの設定方法

※フェールセーフとは：受信機が送信機の電波を受信できないような状況になった場合にあらかじめスロットルサーボやFETスピードコントローラーのスロットルポジションを設定しておき、RCモデルの暴走を防ぐ機能です。

送信機と受信機のバインドが完了したら、フェールセーフの設定をおこなうことができます。

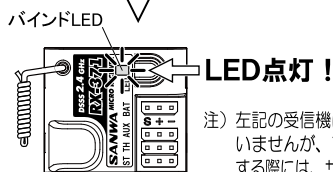
①送信機の電源スイッチをONして、送信機のアウトプットインジケータが点灯していることを確認してください。



②受信機側の電源スイッチをONして、受信機のバインドLEDが点灯していることを確認してください。



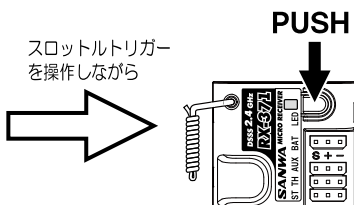
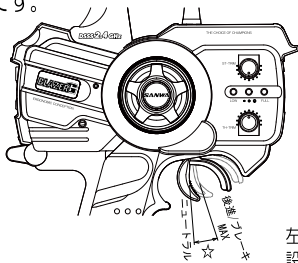
③送信機を操作して、サーボやFETスピードコントローラーが動作することを確認してください。



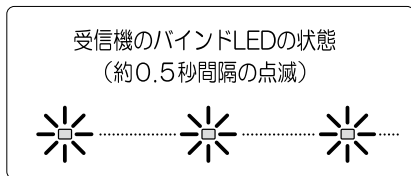
注) 左記の受信機は配線が接続されていませんが、フェールセーフ設定する際には、サーボやFETスピードコントローラー(モーターは除く)、バッテリー等を接続した状態でおこなってください。

④フェールセーフを動かせたい位置にスロットルトリガーを操作しながら受信機のバインドボタンを押す続けて、受信機のバインドLEDが点灯からゆっくりな点滅になるのを確認してください。

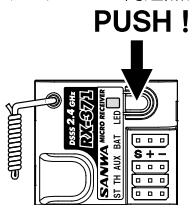
※ハイ側でフェールセーフの設定をおこなうのは絶対におやめください。フェールセーフが働いたときにRCモデルが暴走し、非常に危険です。



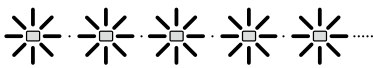
左記☆の範囲内でフェールセーフの設定をおこなってください。



⑤受信機のバインドLEDが高速点滅になるまで受信機のバインドボタンを押すつづけてください。



受信機バインドLEDの状態 (高速点滅)



⑥受信機のバインドLEDが高速点滅になったらフェールセーフの設定は完了ですので、受信機のバインドボタン、スロットルトリガーを離してください。

⑦送信機の電源スイッチをOFFにしてフェールセーフが適切に動作することを確認してください。

⚠ 注意

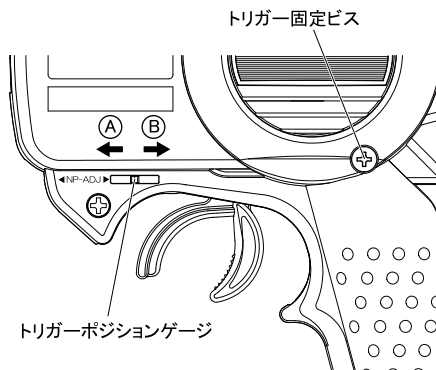
- 安全のため、フェールセーフの設定を必ずおこなってください。
- フェールセーフの設定をおこなったあとでバインドをおこなうと、フェールセーフの設定がクリアされますので、再度フェールセーフの設定をおこなってください。
- レシーバーの電圧が低下した場合にはフェールセーフ機能は動作しません。
- フェールセーフの機能はスロットルにのみ動作します。

プロポの調整

■アジャスタブルスライドトリガーの調整

まず送信機裏側にあるトリガー固定ビスをゆるめます。
次にリバーシスイッチの下にあるトリガーポジション調整ビスを廻してトリガーの位置を決定します。
トリガーポジション調整ビスは ↻ 廻りでトリガーポジションゲージの(A)の方向へ動きます。調整ビス ↻ 廻りで(B)の方向へ動きます。

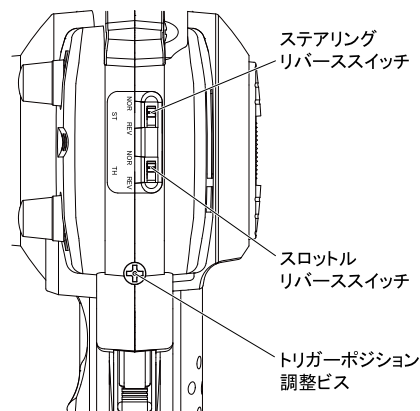
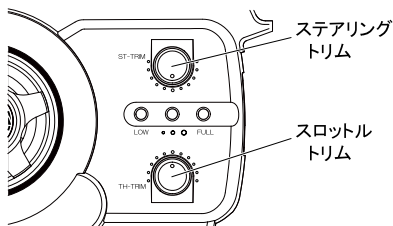
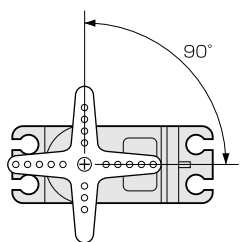
※トリガーの移動範囲は約10mmですので、無理に調整ビスを廻すと故障の原因になりますので、ご注意ください。
最後に位置が決定したら、トリガー固定ビスを締めてアジャスタブル・スライド・トリガーの調整は終了です。



■サーボホーンの取り付け

車体にサーボを取り付ける前に、サーボのニュートラルを出します。受信機にサーボコネクターが確実に接続されている事を確認してから、送信機→受信機の順序でスイッチをONにします。サーボホーンがサーボに対して90°の角度になるように送信機のトリムを廻して調整してください。(サーボホーンを取り付ける方向によっても調整できます。)

※この時、トリムの調整量が多く、左右のどちらかに極端に寄ってしまう場合は、サーボホーンを取り付けを再度やりなおしてください。



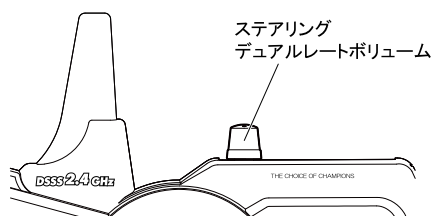
■サーボリバースの調整

車体にサーボを取り付けた状態でステアリング/スロットルを操作してサーボを動作させた時に、プロポ側の操作と車体側のステアリングとスロットルが逆に動作する場合はリバーシスイッチでサーボの動作を逆転してください。

■ステアリングデュアルレート及びEPA (エンド・ポイント・アジャスト) の調整

●ステアリングデュアルレート

ステアリングホイールを最大に操作したときの舵角(左右同角)を調整できます。
車体や路面のコンディションに対応させるため、送信機上部のステアリングデュアルレートボリュームで走らせながら調整できます。



プロポの調整

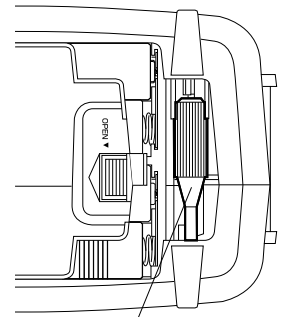
●エンドポイントアジャスト

ステアリングサーボの左右の舵角調整。スロットルサーボのハイ側/ブレーキ側の動作量の調整ができます。

※エンド・ポイント・アジャストの調整は付属のトリマードライバーでおこないます。

トリマードライバーは送信機下部の電池BOX内に収納できます。

調整終了後、電池カバーをスライドさせてトリマードライバーを収納してください。



トリマードライバー

○ステアリング-エンドポイントアジャスト

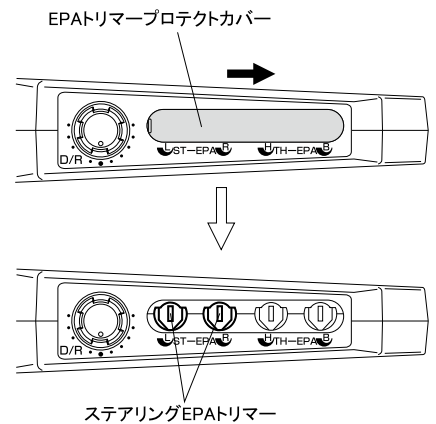
1) まずステアリングデュアルレートボリュームを $\curvearrowright$ 方向に廻して目盛りの左端にあわせませす。

2) 次にEPAトリマープロテクトカバーを右方向にスライドさせます。

3) ステアリングホイールを左側に最大に操作して、RCカーのステアリングリンケージが軽くロックするまでST-EPAのL側のトリマーを調整します。

※右側も同じように調整します。

- ・トリマーは $\curvearrowright$ へ廻すとサーボの舵角が大きくなり、 $\curvearrowleft$ へ廻すと舵角は小さくなります。
- ・実際に走行させる前にステアリングデュアルレートボリュームを2～3目盛り $\curvearrowright$ へ廻し、路面などの状況に合わせて走らせながら調整してください。

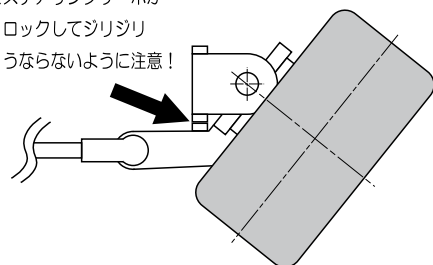


注意 ●ステアリングサーボを車体に搭載してステアリング-エンドポイントアジャストをあわせるときは、次の手順でおこなってください。

- 1) サーボにサーボホーンを取り付ける前にサーボのニュートラルを出します。
- 2) サーボホーンがサーボと直角になるように、ステアリングトリムでサーボのセンターを出します。(P.8参照)
- 3) 車体にサーボを取り付けて、リンケージをおこなってください。
- 4) 車体側のステアリングストッパーに無理なく当たるようにステアリング-エンドポイントアジャストを調整してください。

※ステアリングストッパーに当たった状態からサーボの動作量を無理に大きくしないでください。サーボがロックした状態になり、サーボに過電流が流れサーボ内部のモーターやサーボギヤの破損の原因になります。

※ステアリングサーボがロックしてジリジリうならないように注意!

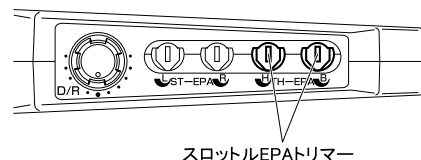


○スロットル-エンドポイントアジャスト

1) スロットルのハイ側/ブレーキ側のEPAの調整をします。

エンジンカーでスロットルのハイ側をあわせる時は、スロットルトリガーを図1のように最大に操作して、キャブレターが全開になるようにTH-EPAのH側のトリマー調整してください。

ブレーキ側の調整をおこなう時は、図2のようにフルブレーキの状態にして、TH-EPAのB側のトリマーを調整します。



・ 正確なブレーキ量の調整は走らせながらおこなってください。

※FETスピードコントローラーを使用する場合は、ハイ側/ブレーキ側共にTH-EPAのトリマーを同一方向に最大にしてFETスピードコントローラー側の調整をおこなってください。

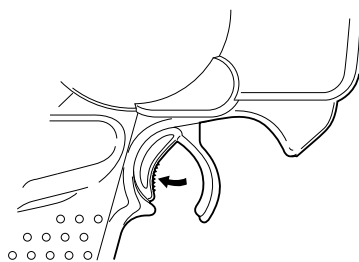


図1

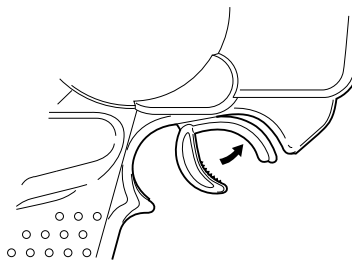


図2

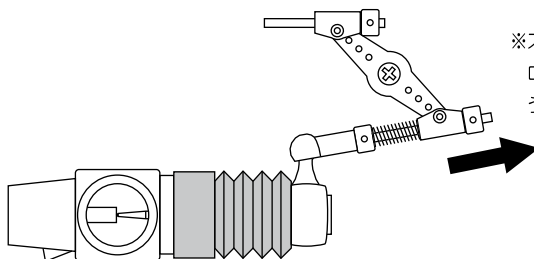


注意 ●スロットルサーボを車体に搭載してスロットル-エンドポイントアジャストを合わせるときは、次の手順でおこなってください。

- 1) サーボにサーボホーンを取り付ける前にサーボのニュートラルを出します。
- 2) サーボホーンがサーボと直角になるように、スロットルトリムでサーボのセンターを出します。(P.8参照)
- 3) 車体にサーボを取り付けて、リンケージをおこなってください。
- 4) 車体側の前進(キャブレター)/ブレーキの動作量に合わせて、無理なくスロットル-エンドポイントアジャストを調整してください。

※キャブレター/ブレーキでのサーボの動作量を無理に大きくしないでください。

サーボがロックした状態になり、サーボに過電流が流れ、サーボ内部のモーターやサーボギヤの破損の原因となります。

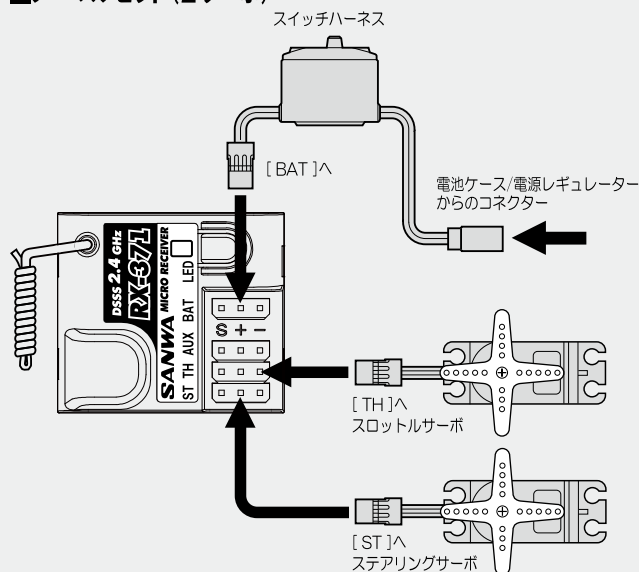


※スロットルサーボが
ロックしてジリジリ
うならないように注意！

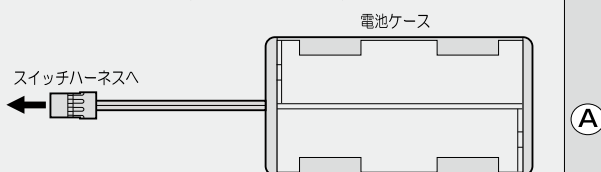
受信機の接続

搭載する車体に合わせて、下図にしたがって接続してください。

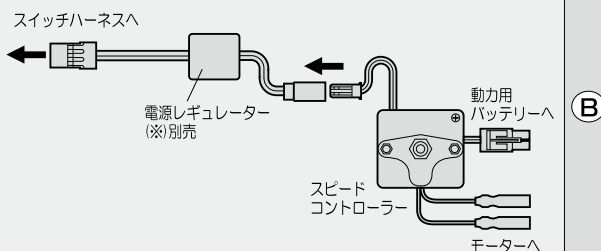
■ノーマルセット (2サーボ)



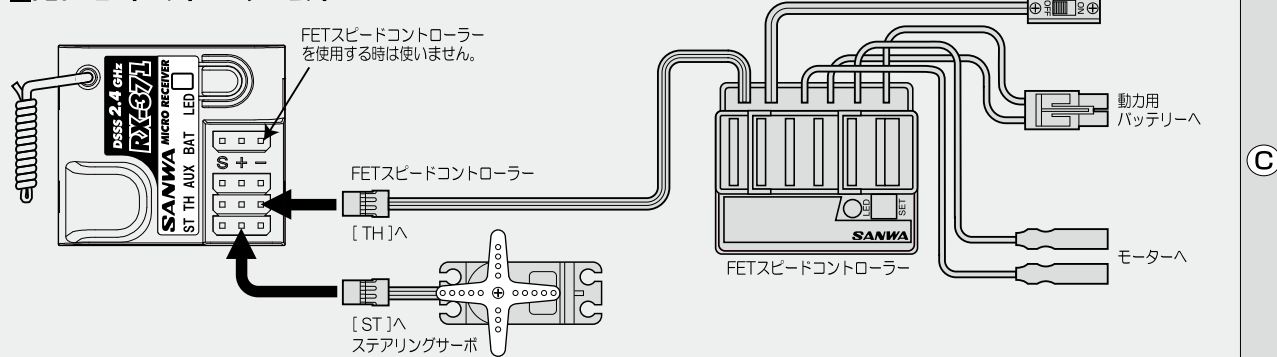
■別電源車体 (エンジンカー等)



■受信機電源共用車体



■FETスピードコントローラーセット



■注意

- 1) 受信機のアンテナはFETスピードコントローラー、サーボ、バッテリー、動力用モーターからできるだけ離れたところに立ててください。
- 2) アンテナ線は切ったり、おりまげたりせずにまっすぐ立ててください。
- 3) アンテナ線の芯線が見えているときは、絶縁テープを貼るか、車体等の金属物に芯線が接触しないようにしてください。芯線が金属物と接触すると本来の性能を発揮できなくなります。

受信機の接続

BLAZERに付属のRX-371は内部回路にBEC(定電圧回路)が組み込まれておりません。RCメカを搭載する車体に機械式スピードコントローラーが付属している場合には、必ず別売りのRX電源レギュレーター(107A20401A)を使用して受信機電源を共用してください。

修理依頼カード

このカードに故障状態を詳しくご記入のうえ必ず製品といっしょにお送りください。

〒

☎ ()

ご住所

フリガナ
お名前

修理依頼用件

ご意見・ご要望

1回目 年 月 日

☐点検、オーバーホール。

☐全く動かない。

☐ノーコンになる。

●一台走行の時

●複数走行の時

☐水が入った。

☐その他

修理依頼用件

ご意見・ご要望

2回目 年 月 日

☐点検、オーバーホール。

☐全く動かない。

☐ノーコンになる。

●一台走行の時

●複数走行の時

☐水が入った。

☐その他

キリトリ線



SANWA プロポ保証書

製品型名

BLAZER G

製造番号

ご住所

お名前

保証期間

お買上げ日
有効期限

年 月 日) 180日間
年 月 日

販売店名・印

当社製品を上記記載通り保証いたします。

三和電子機器株式会社

「???」と感じたら……

動きがおかしかったり「???」と感じたときは、次のことをもう一度確認してください。

- 送信機、受信機の乾電池は正しく入っていますか？ 極性(+、-)は間違っていないか？
- 送信機、受信機の電源スイッチは“ON”になっていますか？
- 送信機のパワーインジケータは2ヶ以上点灯していますか？
- コネクターがはずれていませんか？
- リンクージ(セットアップ)はスムーズに動作しますか？

以上のことを確かめても正常に動作しないときは、お近くのサンワサービスに保証書と修理依頼カードを添えてお送りください。

 プロポは水が一番さらいです。プロポに水が入りそうな場合は、防水対策をしてください。ビニール袋等に入れ、袋の口をゴムやテープでふさいでください。受信機やサーボの中に水が入ると中の電子部品を壊し、動作しなくなります。



キトリ線

- 1.本保証書は表面記入の製品型名、製造番号のみについて有効です。
- 2.正常な使用状態において、製造上の責任による故障の場合、お買上げの日から6ヶ月(180日)以内、弊社にて無償修理いたします。但し、車体、船体、エンジンその他の保障についてはご容赦願います。
- 3.保証期間内でも次の場合は有償修理となります。
 - 電氣的、機械的に変更または手を加えられた場合。
 - 弊社でのサービス以外で修理された場合。
 - 使用上の過失、または事故により発生した故障と認められた場合。
 - 本保証書を紛失された場合、または修理の際、添付されない場合。
 - お買上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。
 - 記入事項を訂正された場合。

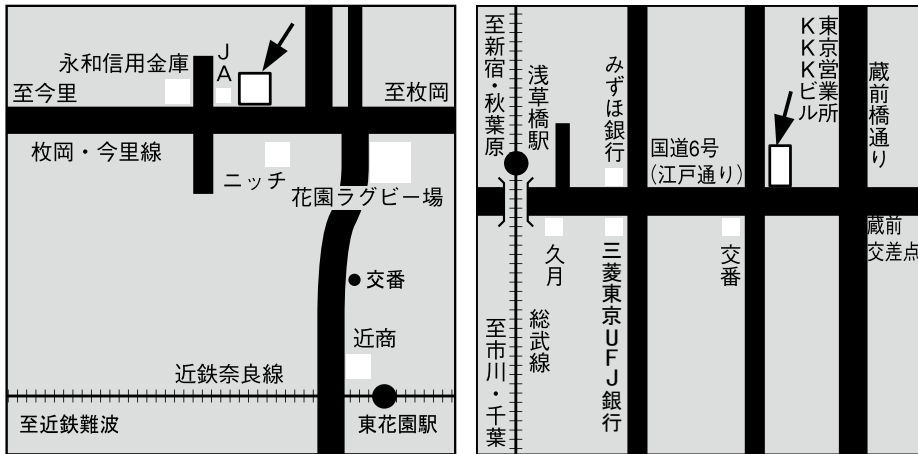
サンワサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを。この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
それでも異常のあるときは、トラブルの状況を詳しくご記入の上、本社サービスまで修理依頼してください。

オーバーホールや点検時は点検内容を詳しくご記入ください。

また、ご質問、お問い合わせ等がありましたら、本社サービス/東京営業所にて受付けております。

電話でのお問い合わせは土曜、日曜、祝日を除くAM9：30～12：00、PM1：00～5：00です。



＜本社サービス＞
東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982 ☎072(962)2180

<東京営業所>
 東京都台東区浅草橋3丁目18-1
 (KKKビル)
 〒111-0053 ☎03(3862)8857

MEMO

[illegible]



SANWA

三和電子機器株式会社

本 社／東大阪市吉田本町1-2-50 〒578-0982 ☎072 (964) 2531
東京営業所／東京都台東区浅草橋3-18-1 (KKKビル) 〒111-0053 ☎03 (3862) 8857

- 予告なく外観または仕様の一部を変更することがあります。
- 2008年12月 第1版